

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：34418

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2022

課題番号：19K23302

研究課題名（和文）Development of Japanese customs as citizenship formation in Latin America:
Evaluation of the linkage between curriculum and practice of citizenship
formation in Peruvian-Nikkei- and non-Nikkei-schools

研究課題名（英文）Development of Japanese customs as citizenship formation in Latin America:
Evaluation of the linkage between curriculum and practice of citizenship
formation in Peruvian-Nikkei- and non-Nikkei-schools

研究代表者

LAGONES・VALDEZ PILAR・JAKELINE (Lagones, Jakeline)

関西外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：00845092

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、2フェーズからなっており、第1フェーズでは、日本社会から非認知的活動（係、掃除、リサイクル）を抽出し、ペルーに住む生徒や家庭、コミュニティでそれらを実施できるように独自にアレンジした。第2フェーズでは、ペルーの公立学校で、上記の活動を実施した。その結果、生徒の自主性が促進し、リーダーシップ力と意思決定力が育成され、さらに、家族や教師とのメンバー間の結束力が高まり、生徒たちの非認知的活動の実践意欲が促進されることを実証しました。発展途上国である中南米では、このような日本式特別活動はありません。本研究によって、中南米において初めて、日本的な教育活動が開始することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育上の成功は、多くの場合、社会感情的スキルの発達ではなく、成績や科目の知識と関連付けられています。しかし、日本では認知学習と非認知学習を、総合的な教育カリキュラムの中に、特別活動（特活）として組み込んでいる。現在のところ、中南米ではこのような日本式の特別活動は無い。本研究によって、日本式特別活動の内容を、中南米で初めて、ペルーにおいて実践することができ、それを今後、長期間継続させることによって、生徒自身や家族、彼らが住んでいる地域、ひいては、中南米社会全体において、市民的資質の大幅な向上が期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study consists of two phases. In the first phase, non-cognitive activities (Kakari, Osoji, and Recycling) were extracted from Japanese society and arranged so that they could be implemented by students, their families, and communities in Peru. In the second phase, the above activities were implemented in Peruvian public schools. The results demonstrated that the activities promoted student autonomy, fostered leadership and decision-making skills, and furthermore, increased cohesion among members of the family and teachers, and promoted students' willingness to practice non-cognitive activities. In Latin America, a developing country, there are no such Japanese-style special activities (Tokkatsu). This project allowed the first Japanese-style educational activities (Tokkatsu) to be initiated in Latin America.

研究分野：教育学

キーワード：Japanese School Peruvian Education Peruvian Citizen Recycling Cleaning Volunteer Tokkatsu Local Community

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

ラテンアメリカ諸国は国際評価で得られるスコアが低いことを常に懸念している。各国の教育機関は教育カリキュラムの改善に努めていますが、より学術的な内容（認知的知識）に重点を置いています。しかしながら、実際には、結果が矛盾しており、認知的知識の獲得と非認知的活動の実践には大きな問題があります。そのため、日本のような前向きな教育経験に基づいて、より総合的な教育を開発する必要があります。日本の教育モデルの特長の一つは、日本人が学校で行う「特活」と呼ばれる特別活動（非認知的活動）です。清掃、リサイクル、ボランティア活動は、日本国民の間に規律と集団意識を築かせる特別な活動の一部です。さらに、日本は国際評価（認知的知識）で高いスコアも獲得しているため、世界で最も成功した教育モデルの一つとみなされており、また、社会的行動（非認知スキル）でも規律と忍耐力が際立っています。従って、ラテンアメリカ諸国においても、将来的に社会を担う人々の市民的資質形成における非認知スキルの効果を考慮することが重要と言える。

2. 研究の目的

本研究は、ラテンアメリカ諸国、特にペルーにおける教育能力の発達に対する非認知活動の影響に関連する特定の側面に焦点を当てました。この研究の目的は、プロジェクト名「0soji-Japan」に定期的に参加しているペルーの公立学校の家族と子供たちに対する3つの特定の非認知スキル活動（掃除、リサイクル、ボランティア活動）の効果を明らかにし、これらの活動に参加することを妨げたり促進したりする要素を調査することである。

3. 研究の方法

まず、ペルーにある学校の現役1年生と2年生を対象とした調査から始めた。この段階の研究課題は、3つの特別活動への生徒の参加頻度に影響を与える要因を明らかにすることであった。次に、意図的に選ばれた5人の生徒と、その家族を追跡調査し、インタビュー対象者の分析を通じて、その結果をさらに深く調査する方法を取った。この段階では、学習プロセスにおける教育的能力として、非認知的活動に参加する生徒のモチベーションを高める3つの要素を分析することであった。また、ペルーの公立学校内で本プロジェクトを実施し、3つのアンケートを作成し、実施した。この段階では、学習プロセスにおける教育的能力として、非認知活動に参加する生徒のモチベーションを高める要素に焦点を当てた。

4. 研究成果

本研究では、ラテンアメリカにおける非認知的活動の実践の欠如と、非認知的活動が教育的能力の発達に及ぼす効果に焦点を当てている。したがって、初年度に、フィールドワークを通じて日本の学校における最も関連性の高い活動を特定しました。その結果、「掃除」、「リサイクル」、「ボランティア」の3つの活動を選択した。これらを選択した理由は、ラテンアメリカでも実施できる可能性があるからであった。2年目は、COVID-19のパンデミックのさなか、ペルーで、このプロジェクトを実施した。上記3つの特別活動は、現地教員による指導のもと、生徒たちの家庭から、順調に実施することができた。パンデミック後の3年目に、私は、現地のペルーに訪問し、フィールドワークを行った。ペルーの公立学校で、校長、教員、生徒たちの積極的な参加により、上記3つの活動を実践することができた。この活動は、まぎれもなく、ラテンアメリカにおける最初の日本の教育活動（特活）の始まりであった。

ペルーでの特活に関連したラテンアメリカ初のプロジェクトであり、ある程度の制限があったにもかかわらず、教育界にとってプラスの利益が見出された。本研究の成果は、次の2つのフェーズで説明する。

A) フェーズ I、パンデミックによるクローズドスクール：本研究の新規性は、バーチャル教育によって学校のクラスをまとめ、子どもだけでなく、その家族も自宅から参加できることである。（アンケート調査、生徒の自宅からの活動、オンラインインタビューなどを実施した）。その意味で、ペルーのオンライン教育による特活に関連する非認知能力育成の研究は、発展途上国において有効と考えられる。これは、COVID-19のパンデミックがすべての国に影響を及ぼしていることから考えると、今日のシナリオに有効である。本研究では、まず、このプロジェクトに定期的に参加している家族や子どもたちに、これらの特定の非認知スキル活動が与える効果を測定することを目指した。次に、このプロジェクトをより大きな教育コミュニティで応用できるようにするため、参加者の参加を妨げる要因や促進する要因を調査した。

B) フェーズ II、オープンスクール： パンデミック後に学校が再開された際に、このプロジェクトをペルーの学校内で実施した（アンケート、学校内でのワークショップ、学校内でのセミナーとインタビューを実施した（図1～3参照））。その結果、次の3つの非認知活動に参加することで、(1) 生徒の自主性が促進され、(2) 生徒のリーダーシップと意思決定スキルが発達し、(3) 家族の関与とメンバー間の結束が促進されることが明らかになった。このプロジェクトを通じて、「学ぶ実践」を促進することができた。これらはすべて、生徒のモチベーションと協調性を高める関連要素であり、学習プロセスにおける教育能力としての非認知活動の発達を促進できる可能性があることがわかった。これは、生徒だけでなく、大人に対する非認知活動の効果においても、さらなる研究を行うための良い出発点となる。この実践を通して、教育システムと家族の間に新たな架け橋を築き、理論（認知）と実践を結びつける理解に貢献することができる。非認知的能力を実践することは、最終的には、将来の国民に影響を与える総合的な教育を促進するために極めて重要と言える。



図1 ワークショップでは、活動の事前・事後でアンケートを実施した。コーディネータ（先生）がアンケートの方法を説明している様子。



図2 特別活動について、先生が生徒に説明している様子。先生は、事前に研究員によって特別活動に関する研修を受けた。



図3 ペルーの公立学校において、生徒が行った「掃除」、「リサイクル」、「ボランティア」活動の様子。ラテンアメリカ初の日本式特別活動による教育。この活動により、生徒の自主性を高め、実践による学び（learning by doing）の精神を身に付けさせることができた。また、この特活活動により、生徒や家族の結束力を促進することもできた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Lagones Jakeline and Yanagida Reina	4. 巻 116
2. 論文標題 Factors that influence the use of Edpuzzle for ELE learners in Japan: A methodological proposal for individual learning.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Inquiry and Research	6. 最初と最後の頁 17-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00008054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lagones Jakeline	4. 巻 137
2. 論文標題 Non-cognitive activities during the COVID-19 pandemic in Latin America: the Osoji-Japan project in Peru.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本ラテンアメリカ学会 会報	6. 最初と最後の頁 11-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lagones Jakeline	4. 巻 112
2. 論文標題 Hardships Experienced by Second-Generation Peruvian Migrant Workers in Japan: Interviews and Analysis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Inquiry and Research	6. 最初と最後の頁 125-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18956/00007932	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Lagones Jakeline	4. 巻 proceeding
2. 論文標題 Japanese School Special Activities as Values in the Context of the Sustainable Development Goals for Nikkei and No-Nikkei Schools in Peru	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceeding from The 31st Annual Conference of the Japan Society for International Development (JASSID)	6. 最初と最後の頁 proceeding
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lagones Jakeline	4. 巻 8
2. 論文標題 From Dekasegi to Immigrant: Achievement of First-and Second-Generation Nikkei Peruvian Family in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Newsletter	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ジャケリネ・ラゴネス、柳田玲奈	4. 巻 9
2. 論文標題 ELE学習者がコミュニケーション授業と文法授業の授業外学習において携帯電話でEdpuzzleを使用することの効果	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高等教育研究論集	6. 最初と最後の頁 88-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Migration and Settlement of First-Generation Japanese-Peruvians and the Educational Challenges of Second-Generation Nikkei in Japan.
3. 学会等名 Japan Society for International Development (JASSID) Tokai Online Symposium
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lagones Jakeline and Yanagida Reina
2. 発表標題 Lexical competence through the use of Edpuzzle for ELE in Japan: before and during the pandemic (2019-2021)
3. 学会等名 31st International Congress of ASELE 2021 (Spain on-line) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Education in SDGs during the context of Covid-19: The Osoji-Japan project and its application as sustainable learning from the school and its community in Peru.
3. 学会等名 日本イスパニヤ学会 第67回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Non-cognitive activities during the COVID-19 pandemic in Latin America: the Osoji-Japan project in Peru.
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会 中部日本研究部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Las costumbres japonesas para la formacion ciudadana en America Latina: La educacion de los peruanos nikkei y no Nikkei
3. 学会等名 LXVI Congress of the Japanese Association of Hispanics 2020 (AJH)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Japanese School Special Activities as Values in the Context of the Sustainable Development Goals for Nikkei and No-Nikkei Schools in Peru
3. 学会等名 The 31st Annual Conference of the Japan Society for International Development (JASSID)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 Proyecto “ OSOJI-JP ”
3. 学会等名 International Seminar. Institucion Educativa Peruana “ San Carlos ”, Peru (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 From Dekasegi to Immigrant: Achievement of First-and Second-Generation
3. 学会等名 イベロアメリカ研究センター 連続公開講座 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 日本における日系ペルー人の社会的流動性を克服するための障壁としての特異性
3. 学会等名 Japanese Association of Hispanics Congress LXV
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Lagones Jakeline
2. 発表標題 The Nikkei People in the Japanese Society: The Case of Nikkei-Peruvians
3. 学会等名 Sophia-Nanzan Latin America Program (LAP) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 ジャケリネ・ラゴネス、柳田玲奈
2. 発表標題 ELE学習者がコミュニケーション授業と文法授業の授業外学習において携帯電話でEdpuzzleを使用することの効果
3. 学会等名 第9回関西外大「授業実践研究フォーラム」
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Lagones Jakeline	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 190
3. 書名 Education and Migration in an Asian Context	

1. 著者名 Lagones Jakeline (contributor)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 25
3. 書名 Economics, Law, and Institutions in Asia Pacific	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Education on SDGs: The Osoji-Japan Project and Its Application as Sustainable Learning. [Symposium]. United Nation Educative Institution Teachers Meeting, Lima, Peru.	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The Osoji-Japan Project Phase 2. [Teacher training]. United Nation Educative Institution Teachers Meeting, Lima, Peru.	開催年 2022年～2022年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------